

加藤製作所の 手作りオリジナルキャニスター

茶筒・のり缶・菓子缶などのメーカーとして120年以上の歴史をもつ、東京・浅草橋の加藤製作所で昔ながらの製法で造ったブリキ製オリジナルキャニスターです。

吹き付け塗装で、一つ一つ丁寧に手作業で塗装しているからこそ、艶と温かみを感じられる仕上がりになっています。尚、製品の材料でありますブリキは、現在食品用の缶詰に利用されているものと同じの素材ですので、食品保存上健康に問題がないだけでなく、湿気をさえぎり、光を遮断する構造により食品を長持ちさせる最適な環境を実現することができます。

日本製の品質の高さ、手作りの温かさを是非お確かめ下さい。きっとお気に召して頂けるはずです。



株式会社 **加藤製作所**

<http://katoseisaku.com>



ホームページでも
詳しくご紹介しているにゃ



Printing by Mochizuki Printing Co., Ltd.
<https://www.ebis.co.jp/mochizuki/>

加藤製作所の 手作りオリジナルキャニスター



手作り機械缶



看板猫の
もんじろちゃんや
おんじろちゃんや
おろしくちゃんや
きい問缶を使ってもらえるよ
嬉しいにゃ...



- ❶ 蓋を開ける際は、蓋の上部分を持って引き上げてください。
- ❷ 蓋の蓋の変形等の経年変化を防ぐことが出来ます。
- ❸ 缶を床に落としたり、ぶつけたりすると、塗料が剥けたり、缶がへこんだりすることがありますのでお気を付け下さい。
- ❹ 粘着性の高い市販のシール、テープを缶に貼ると、塗料が剥けてしまう恐れがあります。

製品の特長とお手入れ方法
本製品は塗装、印刷の工程を一つ一つ手作業で行っているため個体差が生じます。手作り製品の特性としてご理解下さい。

日頃まめに手のひらでなでて頂くと、手の油でシミになりにくく艶と味を楽しんで頂けます。



水分がつかうと錆びる恐れがありますので水洗い等はしないで下さい。汚れた場合は柔らかい布でふき取りよく乾燥させてお使い下さい。

お気を付け下さい。

手作りキャニスターってどんな風に造られているの？

熟練の職人技と長年の使用により手に馴染んだ機械によって一つ一つ丁寧に造られる美しい缶。工程により役割の異なる手動の機械で造られるからこそ、どこか温かみを感じられます。



1
ブリキ板切断作業
切断用の器具を使って大きなブリキ板を1枚、缶のサイズに切断。



2
ブリキ板をまるめる
切断した板を専用の機械を使って一つ一つまるめます。機械に板を素早く、歪みなく差し込んでいくのは簡単そうに見えてまさに職人技です。



3
まるめたブリキを接合する
ブリキの端を織り込んで両端を組み合わせ、上から潰して接合。はんだを使用していないため、錆の心配がありません。



4
底を付ける
底も缶の胴体同様、織り込んで上から圧力を加える形で接合。缶の高さに合わせて機械を都度調整。微妙な調整も長年の経験によりなせる業！



缶に底板が付きました



5
紐出しをし、完成
蓋をはめ込んだ時に蓋がしっかり止まるよう、缶の胴体に突起を造ります。この突起を造ることを“紐出し”と言います。



蓋が付いて完成ですよ



続いてキャニスターに色を付けます。

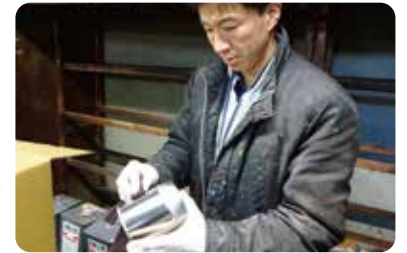
にや〜



2
塗料の調色及び硬さの調整
お客様のご要望に合わせて調色します。塗料を、濃すぎず薄すぎず丁度いい硬さに調整するには十分な経験が必要です。



4
窯で焼く
窯で1時間半塗料を焼き付けます。缶の色やサイズ、外の気温によって缶を焼く位置や時間を考慮しなければなりません。



1
下準備
缶の表面を一つ一つ丹念に拭き、缶の製作時に付着した目には見えない汚れや油分を取り除きます。美しい塗装を施すには重要な作業です。



3
塗装
一つ一つ缶をろくろに載せ、色むらにならないよう、均等に塗料を吹き付けます。吹き付け塗料だからこそ独特の美しい色艶のある缶に仕上がるのです。
塗装ブースは50年程前、先輩職人の方がハンドメイドで造ったオリジナルのもので、それを受け継いで大事に使っています。



5
完成
完全に乾くまで自然乾燥させたあと、絵付師によりデザイン画が施されます。